

13. 筋骨格系および結合組織の疾患

文献

Itoh K, Saito S, Sahara S, et al. Randomized trial of trigger point acupuncture treatment for chronic shoulder pain: a preliminary study. *Journal of Acupuncture and Meridian Studies* 2014; 7(2): 59-64. CENTRAL ID: CN-000988956, PMID: 24745863

1. 目的

慢性肩部痛に対するトリガーポイント鍼治療の有効性評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属病院整形外科、京都、日本

4. 参加者

6カ月以上肩部痛を有する40歳以上の外来患者18名(男性3名、女性15名)

5. 介入

Arm 1: トリガーポイント鍼治療群 8名(平均年齢 55.0±12.6歳)。ステンレス製ディスプレイダブル鍼(0.2×50mm、セイリン社製)を、トリガーポイントに5-15mm刺入し、雀啄を施し10分間置鍼。

Arm 2: 偽鍼群 8名(平均年齢 59.3±15.6歳)。先端を切除したステンレス製ディスプレイダブル鍼(0.2×50mm、セイリン社製)をトリガーポイントに当て刺激。患者には、刺入して雀啄を施しているように見せかけ、10分後に再度抜鍼する真似をした。

Arm1、2共に週に1回、30分の治療を計5回受けた。

6. 主なアウトカム評価項目

痛みに対する Visual analogue scale (VAS)、肩関節機能 Constant-Murley Score (CMS)。

7. 主な結果

VASより、トリガーポイント治療群で経穴治療群と比較して治療4、5、10週後の痛みが軽減した(P<0.05)。CMSより、トリガーポイント治療群で経穴治療群と比較して治療5週後の肩関節機能が改善した(P<0.05)。

8. 結論

慢性肩部痛に対するトリガーポイント鍼治療は有効である。

9. 鍼灸医学的言及

筋膜トリガーポイントに対して一定の深さで鍼を刺入する鍼治療と同じくトリガーポイントに対して刺入しない偽鍼治療との比較。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本文献は慢性の肩部痛に対してトリガーポイント鍼治療が有効であることを示した貴重な研究報告である。なおかつ、RCTに付随するバイアスリスクを極力さけるようにデザインされた方法論的にも質の高い研究である。しかしながら肝心のアウトカムが数値として表記されておらず、統計学的結果のみ記されているため不透明であり、臨床的な効果の大きさを示す効果量が算出されていない。またサンプル数は決して大きいとは言えず、ITT解析が行われていないことも改善点としてあげられる。今後、先行調査の効果量を元に適切なサンプル数の事前設定がなされ、統計学的結果と共に効果量が示された形の研究発表が行われることを期待する。

12. Abstractor and date

保坂政嘉、大川祐世 2016.9.23